



2018シーズン最多勝! 埼玉西武ライオンズ  
**多和田 真三郎** 投手



シンガーソングライター  
**普天間 かおり** さん

初対面では内気でも、打ち解けるとどこまでも相手を迎え入れる温かさを持つ中城村のみなさん。福智町のテーマソング「月夜歌」を手がけた普天間かおりさんも中城村出身の一人です。また15試合連続KO勝利の日本記録を持つ元ボクシング世界王者「浜田剛史氏」や昨年最多勝に輝いた村初のプロ野球選手「多和田真三郎」投手など多方面で活躍する著名人を輩出しています。



著名人も多数輩出!  
 活躍続ける中城人

あお ちゅ 碧き美ら島・沖縄で生まれた衣・食・住・文化…個性豊かな「とよむ中城村」

メジャーな名所から隠れた魅力まで!

# 福智町の兄弟都市 なかぐすくを知る



村を象徴する世界遺産  
**「中城城跡」と英雄「護佐丸」**



中城城は自然の岩石と地形的条件を巧みに生かしながら美しい曲線で構成された6つの郭からなる城(グスク)です。かつて琉球王国に存在した300余りのグスクの中でも中城城跡は沖縄戦による被害が少なく、県内で最も原型を留めるグスクとして、歴史的、戦略的に極めて高い価値を誇っています。15世紀中頃に城主「護佐丸」が北の郭、三の郭を当時の最高の築城技術で増築。琉球戦国時代の英雄「護佐丸」は王への忠誠を全うし自



↑1853年にペリー艦隊が派遣した「琉球探検隊」の絵師・ハイネも中城城を描くなど、高度な建築技術に海外も注目。

↓「中城城」は3年前に開館した「護佐丸歴史資料図書館」のモデルに、「護佐丸」は村のマスコットキャラクターになるなど村民から深く愛されています。



護佐丸歴史資料図書館



曲線が美しい最高の石積み技法で築かれた中城城

## 豊かな風土が築いた独自の伝統芸能と史跡の一部をご紹介します!



ターファークー  
**伊集の打花鼓** 県指定無形民俗文化財  
 中国の移民が伝え、伊集地区のみに残る衣装鮮やかな行列踊り。独特の曲にのせたひねりや屈伸を加えた動きの激しさから、20歳前後の若者だけで演じられます。

とうま  
**当間の大綱引き**  
 毎年7月に2本の太綱をつなぎ、地域が上下に分かれて引き合う120年以上続く歴史ある綱引き。7年ごとに一回り大きいマールジナと呼ばれる綱を引合います。



つは  
**津覇のエイサー**  
 太鼓の勇壮なばちさばきと女性の華麗な手踊りが見る人を魅了。刻々と変わる隊列も魅力の一つで、終盤に向け徐々にテンポを早める手法は津覇独自のものです。



**ペリーの旗立岩** 村指定史跡  
 ペリー提督率いる調査隊が中城城跡の手前でこの岩山に旗を立て、征服記念に祝砲を撃ったとされる大岩。「日本遠征記」にも詳細なスケッチが残されています。

あさと  
**安里のテラ** 県指定有形民俗文化財  
 テラとは神の鎮座する所を意味し、子孫繁栄、無病息災を祈願します。祠内にはビジュルと呼ばれる霊石が祀られ、沖縄の霊石信仰を知るうえで貴重な史跡です。



つは  
**津覇の獅子舞** / わうけ  
**和宇慶の獅子舞**  
 福智町と比べて大型で、ふさふさした毛並みを持つ中城村の獅子舞。柔のメス、剛のオスの舞を一頭で踊り分けるのが津覇の特徴です。和宇慶では、普段は公民館に「神獅子」として安置され、地区内でのみ演じられる神聖なものとして認知されています。



世界遺産だけではなく  
 貴重な文化の宝庫



琉球大と発展進む  
**「南上原地区」**

自然豊かな中城村内で、琉球大学に隣接する「南上原地区」は整備が進み近代的な都市を形成。沖縄本来の自然と共生する都市を目指した都市計画で、沖縄で一番人口の多い地区となつていきます。



沖縄を代表する伝統食  
**「沖縄ソーキそば」**



↑定番のそばに、よもぎを入れて食べるのが現地の通な食べ方。



欠かせない万能着  
**「かりゆしウェア」**

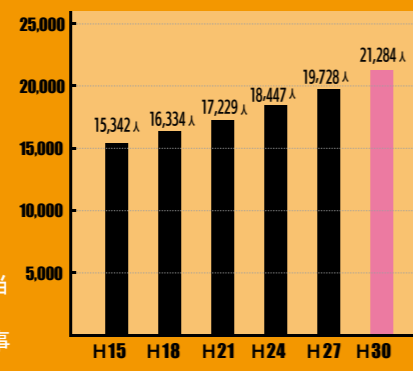


↑県内生産、沖縄らしいデザインが条件の多様な「かりゆし」。

中城村は沖縄本来の伝統や自然を残しながらも都市部へのアクセスもよく、どこか福智町とは似ているように思います。ぜひ実際に訪れて村の魅力に触れてみてください。



中城村役場広報担当  
 ⑥ 謝名堂優美 主事  
 ⑤ 比嘉秀哉 係長



↑人口増加数は国内全村中1位。学校新設が追い付かないほど順調な増加を記録中。